

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

1. けいよう
2. 北総育成園
3. ゆたか福祉苑
4. のまる
5. とらのこキッズ
6. 笹川なずな工房
7. カメリアハウス
8. 魔法のランプ
9. DD ホームズ
10. のまのまホームズ

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔けいよう〕

1. 平成26年度事業活動重点事項及び成果

(1) 高齢化への対応について

利用者さんが年々高齢化し、活動への意欲や自ら楽しんで行動する意欲も減退している方が増えています。急激な小脳の委縮なども通院時に指摘されるなど医療との連携が増え、視力低下や運動機能の低下が著しい方も見受けられます。認知症が疑われる方については、医療機関に相談するなどし、必要に応じて介護保険の申請も相談機関と協力して実施しています。

高齢化対策としては、建物内のバリアフリー度の点検を行い、ヒヤリハットなどから危険箇所を職員間で情報共有し、改善につなげています。危険予知から安全点検も実施して、危険なコーナーにはラバーを貼っています。活動中において小さな段差で躓くことや転倒することもあることから、利用者さんの動作を注意深く観察し事故やけがを未然に防ぐように留意しています。

体感機能維持として、月1回来所する理学療法士とも相談し、毎朝のストレッチやエアロバイクを購入し筋力の低下を予防する運動にも力点を置き実施しています。

何よりも、高齢化によりこれまでできていたことができなくなり、着替えの順序に混乱を見せたり、徘徊のようにじっとして椅子に座っていることができなくなっている利用者さんが増えており、マンツーマン対応が増加しています。見守り、介助の手を差し伸べる際は、できるだけご自分でできることはご自身できるように支援しています。いつまでも自分らしく生活していただきたい。

できないこと、できなくなったことを否定的に見るのではなく、できることを維持し「その気になる」ことを増やす工夫を共に考え支援することが利用者さんの元気につながるように思われます。

(2) グループ活動の見直しについて

利用者さんの高齢化や支援内容の多様化などからこれまでの①アロハ班②オーレ班の活動を見直し、10月から①新聞班②創作班③風船班の3グループで活動しています。建物内の作業室が3室あり、そのうち2室を作業活動に使用し午前午後と班別に入れ替えておりましたが、3室を使用し作業活動別に分け、利用者さんの日常ニーズに沿った活動内容にしたところ、利用者さんの笑顔が増え、何よりも「自分の居場所を見つけたぞ」といった態度を示す方もおられます。

その点では、利用者さんの意向に沿った内容に近づいたかと思われます。日課も合わせて見直し、週の初めと終わりに飲み物や好きなお菓子などの買い物をするメニューを入れたところ、週の感覚が理解でき、楽しんで日中活動をしている光景が見られます。以前一か所に集まり休憩していましたが、その混雑ぶりから解き放たれたようにお一人おひとりの「居場所」が確保され、居心地の良さを体で表現できているように思われます。

作業内容については、下請け的な作業が減少し、作業の変化に乏しい面はありますが、畑作業などでは利用者さん同士の助け合いも見られます。

(3) 人財の育成について

職員の定着率が低く、その対策として「やめない職場づくり」を目指しています。離職しないよう人財をしっかりと育てることに重点を置いています。

中でも、外部研修に力点を置き、千葉県社会福祉協議会主催の研修には、できるだけ職員を派遣し研修し、職員のスキルアップに活かしていくことを目指しています。職員の勤務年数に応じ初任者、中堅、リーダー別に参加し、その内容を日々の職務に反映させることを期待しています。

また、職員研修日に支援に関連するレポートを読み合わせるなど、よき実践例を提示することで、チームワークに活かしていくように実施しています。職員間の連携、協働意識は職務を遂行していく上で欠かすことはできず報告連絡相談を基本に、互いの役割を意識しつつ日々の業務を円滑に遂行できるように図っています。

法人内では職員の倫理綱領を作成していますが、けいようではさらに職員の行動基準を示しています。

▽けいよう職員行動基準

- ① 安全を優先する
- ② 相手の立場に立った行動をする
- ③ 役割を意識する
- ④ 利用者さんの大切な時間を守るため行動をする
- ⑤ 利用者さんが主役であることを意識して行動する

このことが絵に描いた餅にならないよう利用者さんから信頼される職員集団を形成できるように今後も緊張感のある職場づくりに努めてまいります。

(4) 虐待防止・権利擁護研修について

月末の職員研修や職員会議に虐待事例を基に職員として姿勢や態度について意見交換する機会を作っています。職員としてのあるべき方向性を議論し、虐待防止研修に参加した職員に報告の場を提供し、研修内容について説明を求めるようにしています。機会は少なかったものの、権利擁護の重要性については職員間で認識できていると考えています。

(5) 施設経営について

サービス管理責任者、主任、班リーダーと管理者による経営会議を月1回計画しました。テーマ、利用者さんのサービス提供に関することや、時々話題や利用者さんの高齢化に対する支援の在り方、などはじめ施設経営に関することも含め行っています。財源のことを説明するなど将来の施設経営に当たる職員としての自覚とリーダーシップを期待しています。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数点1位四捨五入

	管理者	サピ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養 士	その他(運転 士等)	計
26年度当 初	1	1		1	4	1	
男 子	1		7 (6.4)	()	()	1 (0.5)	()
女 子		1	10 (8.4)	1(0.1)	4(2.3)	()	()
計	1	1	17 (14.8)	1 (0.1)	4 (2.3)	1 (0.5)	25 (19.7)
年度中増減			1増2減				
男 子			()	()	()	()	()
女 子			1増2減 ()	()	()	()	()
計							
27年度当 初	1	1	16 (13.8)	1 (0.1)	4 (2.3)	1 (0.5)	()

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B	児童発達支援		計
定 員	40				40
26年度当初契約者数	46				46
年度内新規契約者数	3				3
年度内解約者数	2				2
年度末契約者数	45				45

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B	児童発達支援		計
年間延契約者数	544				
年間開所日数	250				
年間延利用者数	9751				
利用率	97.5%				

(3)利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

年齢区分	18	20	21	25	26	28	30	31	34	35	37	38
男子	1	1	1	2	2		1	1				2
女子				1	1	1	1	1	1	1	1	
計	1	1	1	3	3	1	2	2	1	1	1	2
構成比率												

40	41	43	44	45	46	47	48	49	50	55	57	59	75	
2	1	1	1	2	1	3	1		1			1	1	28
		1		1	3	1		1		1	1			17
2	1	2	1	3	4	4	1	1	1	1	1	1	1	45

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名(けいよう)

区分	2	3	4	5	6	計
男子		3	9	10	6	28
女子		3	8	2	4	17
計		6	17	12	10	45
構成比率		14%	38%	26%	22%	

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	鎌ヶ谷市	その他		計
			県内	県外	
男子	26	1		1	28
女子	17				17
計	43	1		1	45
構成比率	95%	2.5%		2.5%	100

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	17		7	4				28
女子利用者	10		6	1				17
計	27		13	5				45
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
コミュニケーション研修	全職員	6月28日	常勤職員 10名	
モチベーション研修	全職員	10月25日	常勤職員 10名	
育ち・親子の関わりあい	全職員	1月31日	常勤職員 11名	

イ、 外部団体等主催研修への参加 (各1名ずつ参加)

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
県社会福祉協議会	新人職員研修	4月18日	1	
県社会福祉協議会	新人職員研修	5月8日	1	
県社会福祉協議会	指導力セミナー	6月10日	1	
県知的福祉協会	新任職員研修	6月17日~18日	1	
県社会福祉協議会	会計簿記初級	6月18日	1	
船橋市保健所	給食施設研修	6月26日	1	
県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	7月1日	1	
県社会福祉協議会	スキルアップ	7月8日~9日	1	
知的福祉協会	関東地区職員研修	7月10日~11日	1	

県社会福祉協議会	キャリアデザイン 研修	7月23日~24日	1	
県障害福祉課	相談初任者研修	8月5日~6日	1	
てんかん協会	てんかん基礎講座	8月5日~6日	1	
ダウン症協会	成人期対応セミナー	8月17日	3	
県知的福祉協会	施設長研修	8月20日	1	
県社会福祉協議会	傾聴研修	9月3日	1	
知的福祉協会	日中活動施設長研 修	9月16日~17日	1	
県社会福祉協議会	リスクマネジメン ト研修	9月22日	1	
日本興亜損保	苦情対応セミナー	9月24日	1	
県社会福祉協議会	アソガーマネジメ ント研修	10月2日	1	
県知的福祉協会	虐待防止	10月10日	1	
千葉商工会議所	会計簿記初級	10月15日、22日、 29日	1	
県障害福祉課	サビ管研修	10月29日	1	
県社会福祉協議会	コーチング研修	10月31日	1	
県共助会	事務会計処理	11月5日	1	
県知的福祉協会	虐待防止応用編	11月6日	1	
県社会福祉協議会	コミュニケーション 研修リーダー	11月10日	1	
県社会福祉協議会	救急法	11月11日	1	
県障害福祉課	サビ管研修	11月19日、21日	1	
県社会福祉協議会	苦情解決	11月20日	1	
県社会福祉協議会	医療知識	11月25日	1	
県社会福祉協議会	会議運営	12月5日	1	
県社会福祉協議会	アサーション	12月9日	1	
県社会福祉協議会	医療知識	12月12日	1	
県社会福祉協議会	介護技術	1月15日	1	
県共助会	退職共済	1月23日	1	
弘済会	こうさいセミナー	2月6日	1	
県社会福祉協議会	口腔ケア	2月10日	1	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行先の届け出	備考
1	9月27日	登所後両手甲が腫れている	移動事業所に確認 サービス提供後身体を確認	届け済み	通所して確認
2	12月2日	船橋競馬場駅構内でスカイライナーを急停車させる	通所ルート在即変更	届け済み	通所前
3	1月15日	作業室内で倒れ救急搬送(体内の出血で血液の必要量が低下)	毎朝バイタルチェックを実施	届け済み	活動中
4	2月25日	本人痛みからか立ち上がれず救急車を呼ぶ。 (腓骨骨折)	車いすでの生活 (自宅で骨折)	届け済み	自宅

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔北総育成園〕

平成 26 年度事業活動重点及び成果

I 船橋市事業としての本館（昭和 49 年居住棟/平成元年居住棟・管理棟・厨房・P ルーム等）大改修工事を引き受ける。2015（27）年 3 月末、全て個室化された暮らしに移行

あの東日本大震災のあった、2011（23）年 11 月から始まった船橋市事業として北総育成園個室棟新築工事。引き続いての 2014（26）年 1 月から開始された本館大改修工事。この事業は足掛け 3 年の歳月を経て、2014（26）年 11 月に一先ず全ての建築工事終了。その後、新居室使用の段取り、新装厨房使用の手続きを経て、3 月 26 日（木）から北総 75 名利用者全員が個室生活に移行しました。56 名新個室棟はコンパクトな構造ですが、本館個室は 75 名雑居棟から 27 名の個室棟に改造され、それは今までとは見違えるようなゆったりとした造り。旧女子風呂場は介護浴槽に改造され、また、各所のトイレも介護仕様構造になり、全て面目一新。その個室の暮らしも 2 ヶ月が経過。新館・本館、その個室暮らしに慣れて、ゆったりと自分の時間を楽しんでいる雰囲気の人が増えてきているように思われます。逆に気になることもあります。個室は孤立で、その人の様子が見えにくくなっていること。いろいろな曲折を経ながら、個室利用がこの人たちの本当の利益になるように見守っていきたいと存じます。

II 創立 40 周年記念事業

(1) 須賀山城址整備と開山祭り（26/5.23）。

“遠くの親戚より近くの他人”。昭和 49 年 4 月 1 日の開園以来、40 年。地域の皆様のご厚情の中で育てて頂いた船橋市のこの人たち。その万分の一の恩返しとして取り組んだ、地域の史蹟須賀山城址整備事業。本丸跡は広場として再生。この日、岩田東庄町町長さんもお参加下さって須賀山城址開山祭り。地域の皆さんから沢山の感謝の言葉を頂きました。

(2) 27.4 月 16 日（木）/創立 40 周年記念式典（27/4.16）。

船橋市事業として新館新築・本館大改修工事が一段落する時期に建物のお披露目も兼て“創立 40 周年記念式典”をとということで、この 4 月 16 日、松戸船橋市長にご臨席頂き新緑に新築成った建物が眩しく映える良い天気の中、多くの皆様に 40 周年をお祝いして頂きました。

III 利用者の高齢化・介護度の高まり・医療的ケア。そして“働くこと生きること”

この人たちは私たちより 10～20 歳が早いと言われてはいますが、平均年齢 54 才の北総の現実には当にそれを表しています。昨年度、二人の北総利用者が亡くなりました。二人ともしっかりした兄弟が最後を看取りました。現在 70 才以上が 5 名います。優秀な師岡看護師さんの的確な判断の中で何とか北総の暮らしを維持。

IV “人は石垣人は城” 良い職員の確保努力

少子高齢化の真っ只中、しかもここ東庄は過疎地。この人たちに寄り添う職員の確保は困難を極めています。幸い、27 年 4 月スタートでは 2：1 の職員確保がされましたが、これは来年もそうであることを意味しません。職員確保が引き続き一番大きな課題です。

1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数値1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
26年度当初							
男子	1	1	13 (1.6)	()	()	()	15 (3)
女子		1	16 (8.7)	1 ()	4 ()	2 ()	24 (15)
計	1	2	47	1	4	2	57
年度中増減							
男子			3 (1)	()	()	()	3 (1)
女子			2 (1)	()	()	()	2 (1)
計			7				7
27年度当初	1	2	34 (11.2)	1 ()	4 ()	2 ()	44 (11.2)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	入所支援		計
定員	75名		75名		
26年度当初契約者数	77名		73名		
年度内新規契約者数	2名		2名		
年度内解約者数	3名		1名		
年度末契約者数	76名		74名		

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B	入所支援		計
年間延契約者数	79名		75名		
年間開所日数	269		365		
年間延利用者数	20,190		25,766		
利用率	100%		94%		

(3) 利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子			3	3	1	15
女子	1		1		2	1
計	1		4	3	3	16
構成比率	1%		5%	4%	4%	22%

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
5	5	10	2	4	48	49.2
2	4	4	4	7	26	56.07
7	9	14	6	11	74	52.63
10%	12%	19%	8%	15%	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子		3	14	31	48	5.58
女子		0	11	17	28	5.6
計		3	25	48	76	5.59
構成比率		4%	32%	64%	100%	

事業名(入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子		3	14	31	48	5.58
女子		0	11	15	26	5.57
計		3	25	46	74	5.58
構成比率		4%	34%	62%	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	37	2	5	4		48
女子	11	2	4	5	4	26
計	48	4	9	9	4	74
	66%	5%	12%	12%	5%	100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	17	4	13	6	7		1	48
女子利用者	2	3	4	14	2		1	26
計	19	7	17	20	9		2	74
平均年齢		73.5	73.6					
最高年齢		85	95					

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任研修会	3	26年4月1日	3	
医務講習会	35	26年4月10日	35	
虐待防止研修会	35	26年4月10日	35	
保護者職員合同宿泊研修	35	26年8/2~3	35	

イ、 外部団体等主催研修への参加 (*詳細は事業報告書にて)

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害福祉協会	新任職員研修	26年6/17~18	3	
千葉県知的障害福祉協会	中堅職員研修	26年6/25~26	3	
日本知的障害福祉協会	全国大会	26年9/3~5	4	
千葉県社会福祉研修センター	傾聴研修	26年10月1日	3	
千葉県障害福祉課	強度行動障害研修	27年3月15日	2	

5. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行先の届け出	備考
1	平成26年 7月30日	女性利用者の死亡	病気療養の為 3か月入院	船橋市 届ける	
2	平成26年 8月3日	女性利用者の パニックによるケガ	障害特性を理解して 対応する	船橋市 届ける	
3	平成27年 1月31日	男性利用者の頭部 裂傷(通院)	ハットギア確実に装 着して対応する	船橋市 届ける	

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔 ゆたか福祉苑 〕

1. 平成 26 年度事業活動重点事項及び成果

○スタッフ体制と基本姿勢

ゆたか福祉苑創立以後二度目となる管理者の交代があり、今年度は新たな体制でのスタートとなりました。支援スタッフも新人スタッフが 7 名と大幅な入れ替わりがあり、年度当初よりご利用者様やご家族様及び関係者の方々に様々な面でご心配やご迷惑をお掛けいたしました。そのような状況の中で、まず私達ができる事として意識してきたのは、ご利用くださる皆様を丁寧にお迎えさせて頂く事でした。昨年度終盤から朝の登苑時間に配置する事となった玄関ホール見守り役を、新たに『朝の顔』と名付け、この役を筆頭に積極的な姿勢で明るく元気に挨拶を行ない、来て頂いた事へ感謝の気持ちを表すようにしてきました。まだまだ不十分ではありますが、日々丁寧なお迎えを意識する中でスタッフ個々のご利用者様への敬意が育まれ、皆様に一日を通じて心地良さを感じて頂けるような雰囲気作りを今後も目指します。

スタッフ一人一人が責任感とプライドを持ち、各々がゆたかの顔である事を意識すべく、個別のネームプレートを作成しました。携行は任意としましたが多くのスタッフが身につけ、ご家族に対しても名前を覚えて頂くきっかけの一つになったのではないかと思います。

○個別支援計画とモニタリング

ご利用者様お一人おひとりについて担当班スタッフ話し合いの下、個別に支援計画を作成し、ご本人様ご家族様へ提示の上で支援にあたらせて頂いてきました。しかし日々の支援の中では、スタッフによって支援計画の理解にバラつきがあったり、支援計画が意識されていないままの活動を班として続けていたり等の事が現状としてありました。この事は、モニタリングの際などに、いくつかのご家族からご意見やご指摘をいただき、私達の反省材料とさせていただきます。現在の支援と支援計画の整合性は取れているのか、ご利用者様ごとの大切なポイントは共通理解されているのか。次年度の計画を作成する際にもしっかりと確認していく。

○設備面について

車椅子使用のご利用者の方々に、安全かつリラックスして過ごして頂く活動スペースを確保する為、和室のバリアフリー改修工事を昨年度末に行ないました。今年度開始と同日で工事が完了し、即使用を始めています。当初の目的通り、車椅子を降りてのリラクゼーションに活用していますが、使用状況を確認しながら各班で様々な活動を行なったりと、複数班で連携して合同活動を行なうなど、新たな活動展開が見られています。余暇時間にも様々な方が訪れ、一つの交流スペースとなりました。

夏季に、もも活動室、新館すずらん活動室と相次いでエアコンが故障し、暑い中皆様

にご不便をお掛けする事態がありました。この様な設備や機器の不具合は、年々増加しており、その都度修繕にあたっています。また、今年度は高圧受電設備の交換工事を行ないましたが、今後も大きなトラブルを回避していくための修繕を計画的に進めていく必要があります。

○送迎について

今年度より送迎車輛の燃料費を徴収させて頂きました。皆様のご理解のもと、運行の継続ができており感謝しています。

南バスについては渋滞による遅れが多く、予てよりご負担をお掛けしていますが、エンジンやバッテリートラブルが相次いだ際には更にご迷惑をお掛けしました。のまる車輛の借用やご家族送迎に頼り、急場をしのぐ事ができました。法定点検は勿論、自主点検も行なっているのですが…。

スタッフの確認不足、連携不足により、乗車もれやバス停通過をしてしまい、ご本人様ご家族様にご迷惑をお掛けいたしました。出発前の乗車チェックを複数名で行ない相互に確認し合う事で再発防止に努めました。

前出の南バスの遅れについての問題や、コースの重複による非効率的状況等についての課題を認識しつつも、具体的な改善策を講じられないまま現在に至っています。長らく乗り続けてきたワゴン2及びワゴン3を順次新車と入れ替える段取りと併せて、具体的な改善を図りたい。

○行事について

ゆたかの夕べを今年度も無事に開催することができました。ご参加くださった方々、関係者の方々に改めて感謝いたします。ゆたかの夕べは当苑と船橋市手をつなぐ育成会との共同開催で行なっており、育成会にとっても毎年の恒例イベントとして大きな役割を担っています。しかしながら、年々ゆたか福祉苑のご利用者様及びご家族様の参加人数が減少してきており、更に今後を考えると、何らかの工夫が必要なのではないかと思われれます。例えば当苑のご利用者様にスポットを絞り、開催時期を季候の穏やかな時期に変更したり昼中心の開催時間にしようとした時、共催の意味自体も見つめ直さなければならぬ時期に来ているのではないかと考えます。

土曜登苑は、室内イベントと外出のアンケートを取らせて頂きましたが、やはり外出希望がとても多く、企画担当が調整させて頂きましたが、全ての希望にはお応えすることが出来ませんでした。外出は様々なリスクが伴う為スタッフ配置を厚くする必要があります。尚且つ平日とは違い外出先の施設やレストランが混雑している為に大人数での行動が困難でありました。今年度の実績と反省を踏まえて、次年度の企画に繋げていきたいと考えます。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
26年度当初					メリックス(働委託)		
男子	1	1	8 (0.9)	()	()	(0.4)	9 (1.3)
女子		1	15 (8.4)	1 (0.3)	()	1 (0.9)	18 (9.6)
計	1	2	32.3	1.3		1.3	37.9
年度中増減							
男子			(1)	()	()	()	(1)
女子			-2 ()	()	()	()	-2 ()
計	0	0	-1	0		0	-1
27年度当初	1	2	22 (9.6)	1 ()	メリックス(働委託) ()	1 (1.3)	27 (10.9)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	重心多機能			計
定員	75	5			80
26年度当初契約者数	87	8			95
年度内新規契約者数	0	0			0
年度内解約者数	1	1			2
年度末契約者数	86	7			93

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	重心多機能			
年間延契約者数	21,728	1,899			
年間開所日数	250	250			
年間延利用者数	18,626	824			
利用率	99.3%	65.9%			

(3)利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

生活介護(75名定員)

年齢区分	～20	21～30	31～40	41～50	51～	計
男子	2	9	18	26	1	56
女子	1	4	8	17		30
計	3	13	26	43	1	86
構成比率	0.3%	15.1%	30.2%	50%	0.11%	

重心多機能(放課後デイ&生活介護)

年齢区分	放課後デイ	～20	21～30	31～40	41～50	計
男子	1(13歳)		2	1		4
女子	1(12歳)		1	1		3
計	2					7

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6		
男子	2	22	16	16		
女子	3	6	12	9		
計	5	28	28	25		
構成比率	5.8%	32.6%	32.6%	29.1%		

事業名(重心多機能)

区分	未認定	6				
男子	1	3				
女子	1	2				
計	2	5				
構成比率	28.6%	71.4%				

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	千葉市・習志野市・四街道市・八千代市	その他		計
			県内	県外	
男子	57	3			60
女子	32	1			33
計	89	4			93
構成比率	95.7%	0.43%			

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	40	3	12	3	1	1		60
女子利用者	20	0	9	4				33
計	60	3	21	7	1	1		93
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任職員研修	新任職員	5/31,11/29	新人職員 7名	グループホームスタッフからの事業紹介、先輩職員の実体験アドバイス、新人職員による事業所紹介等。
法人内部研修	法人職員	6/28,10/25,1/31		合同研修係主催で実施。
苑内研修	支援職員	各月職員会議日		外部研修参加者を講師役とした、自主研修および演習を実施。
防災講習会	支援職員	9/27,2/28		9月は防火管理者による自主講習会。2月は所轄消防署員を招いての応急救護訓練を実施。

イ、 外部団体等主催研修への参加 ※別紙にて報告

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県社会福祉協議会	新任職員の接遇マナー	5月13日 (火)	1	
東京都障害者通所活動施設職員研修会	合理的配慮とアンガーマネジメント	5月23日 (金)	2	
千葉県社会福祉協議会	障害者(児)福祉施設新任職員研修	6月10日 (火)	1	

千葉県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	7/1・8/6 8/7	1	
千葉県安全運転協会	安全運転管理者講習	8月5日 (火)	1	
全国重症心身障害 日中活動支援協議会	第9回関東地区研修会	7月5日 (土)	1	
東京都障害者通所活動 施設職員研修会	困難事例を通して問題解決 アプローチを学ぶ	7月16日 (水)	1	
千葉県	平成26年度千葉県喀痰吸引 等研修	9/8・9/15 9/22	1	
千葉県重症心身障害 連絡協議会	重症心身障害者の権利を守 るために施設が果たす役割	7月30日 (水)	1	
東京都障害者通所活動 施設職員研修会	重症心身障害者の日常観察 と気づき	9月30日 (火)	1	
千葉県社会福祉協議会	コミュニケーション研修 (新人職員編)	9月30日 (火)	1	
千葉県社会福祉協議会	コミュニケーション研修 (リーダー編)	10月14日 (火)	1	
一般社団法人総合福祉 研究会千葉県支部	社会福祉会計簿記講座 (初級)	10/15・ 10/22・10/29	1	
特定非営利活動法人 生活サポート千葉	罪を犯した障害者の福祉に よる生活支援	10月31日 (金)	1	
東京都障害者通所活動 施設職員研修会	個別支援計画における職員 の意識を見直す	1月26日 (月)	1	
社会福祉法人 大成会	スノーブレン基礎講習・ 自閉症基礎研修	2月7日 (土)	1	
千葉県知的障害者福祉 協会	平成26年度職員研修会	2月18日 (木)	1	
一般社団法人ひと・くら しサポートネット千葉	障害児者のライフサポート 研修	2月25日 (水)	1	
田口教育研究会	発達障害基礎講座	2月28日 (土)	1	
千葉県知的障害者福祉 協会支援スタッフ部会 東葛北・南ブロック	支援スタッフ部会研修会	3月6日 (金)	1	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届出	備考
1	H26.6.10	竹林の林道を散歩中、気分の昂ぶりから足を滑らせてしまい転倒。顎に裂傷を負わせてしまった。	ご本人の状態を見極めながら、外出へのお誘いは慎重に行っていく。	有	頭部のCT撮影、顎の縫合処置。
2	H26.6.19	高揚されたご本人がスタッフを押した勢いで前に転倒してしまい、両膝をうってしまう。	体調に由来すると思われる気持ちの波を考慮し、柔軟な活動の提供を行う。	有	レントゲン撮影、両膝の消毒処置。
3	H26.9.5	発作のため転倒。床に敷いたクッションマットの上に座っていたが、頭部がマットから出てしまい頭を床に打ってしまった。	より安全に過ごして頂く為に環境の整理を行い、ご本人にも座って頂く位置などについてご協力をお願いしていく。	有	頭部のCT撮影。
4	H26.9.9	テラスにて簡易プールで遊んでいたところ気持ちが高揚され、走って室内に入り足を滑らせて後頭部に裂傷を負わせてしまった。	突発的な行動に対応するため、マットの用意等の事前準備を入念に整える。ご本人のお気持ち具合を常に察しながら、対応を行う。	有	頭部の縫合処置およびCT撮影。
5	H26.11.26	眠気が強くふらつきが見られた方と介助で移動中、スタッフが上手く支えきれず壁に顔面をぶつけてしまった。帰宅後鼻の腫れに気づいたご家族が病院へお連れし、鼻骨の骨折が判明。	眠気が強い場合には移動を促す前に出来るだけ目を覚まして頂くよう働きかける。場合によっては、スタッフ2名での確実な介助を行う。	有	怪我に気付かなかった事を反省し、ご家族に謝罪致しました。
6	H27.3.12	苑周辺を散歩中、道路端のアスファルトの境目に足を取られ転倒。その際、落ちている石に顔面をぶつけてしまい、額の裂傷及び鼻に擦過傷を負わせてしまった。	慣れた道や慣れた環境であっても、危険予測の注意を怠らず、安全確保に努める。	有	額の縫合および消毒の処置。頭部CT撮影。

7	H27.3.13	公園の傾斜のある芝の上で遊んでいたところ、足を滑らせてしまい右足首を捻挫してしまった。ご本人の心的負担を考慮し通院はお控えになるとの事でしたが、週末腫れが引かず、結果的にご家族に通院して頂いた。	ご利用者様に楽しんで頂くことを考えつつ、常に先の事を想定し、事故や怪我を未然に防ぐよう努める。	有	週明け以降の通院からスタッフが付き添い、回復されるまで苑の車椅子をお貸ししました
8	H27.3.13	上記事故で足を怪我された方の歩行が困難だったため、スタッフの判断で同行していたご本人に車椅子をお借りした。歩いて苑に向かう途中、発作で転倒。地面に顔面をぶつけ、前歯を欠いてしまった。	一件目の事故の時点で苑からの応援があれば、起こさなくて済んだ事故である。事故の連鎖を防ぐため、通常でない事態が起きた際には無理せず速やかに応援を依頼する。てんかん発作がある方の支援にあたる心構えについて、今一度意識を改める。	有	車椅子を勝手にお借りした際の事故である旨を報告し、一件目の事故対応の不手際が要因である事について謝罪させて頂いた。

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔のまる〕

1. 平成 25 年度事業活動重点事項及び成果

(1)入居者支援の振り返りシートの実施

入居者と職員の関係性を意識するために、入居者の呼称について原則的にご苗字でお呼びすることを職員に周知しましたが、その意味を支援職員の一部に意識が低く、時間がかかりました。現在はほぼ浸透しています。

(2)入居者健康管理と衛生管理

6月中旬より、女性入居者を中心に原因不明の皮膚疾患での感染症と思われる事態が発生し終息まで約3ヶ月を要することとなり、施設入居者の方及びそのご家族、またこの期間の短期入所利用の制限等により、地域の方々にも多大なるご心配をおかけすることになってしまいました。

しかしながらこのことを契機に、建物内の清掃を含めた衛生管理方法を根本的に見直すことにもつながり、消毒薬や危険性のある日用洗剤の管理についても同様に見直しを図ることができ、現在も継続的に行っています。

(3)男性入居者の現状と今後のGHへの展望

入居期間が15年を超える入居者が現在の男性入居者26名中、15名ご入居されています。当時30歳の方は45歳になり、45歳の方は60歳をお迎えになりました。特に男性ユニット【ニュージュ】には、これまでの「身体介助」から「身体介護」への要素が強くなった方が増え、日々の生活支援に当たる職員支援内容も介護的な支援が多くなってきました。

当施設は最寄駅やスーパーやコンビニ等からも離れており、介護的要素が多くなった入居者の方の生活は、どんどん「小さな生活」になってきています。

今後法人でのGH新設にあたっては、高齢及び介護的要素が強い方にターゲットにしたGHを望むと同時に、当施設の支援職員が中心となりプランニング(立ち上げ)させていただくことをお願いさせていただきます。

(4)職員不足と日中活動(生活介護事業)の今後

(3)の事もあり、現在の2カ所での従たる事業所での展開が困難になってきています。(習志野・三咲事業所)特に習志野事業所は場所も狭く、職員配置数で不効率な状況にあります。

6月末をもって従たる事業所【習志野事業所】を終了し、【三咲事業所】に集約する方向としたい。※現在【習志野事業所】をご利用されている4名の方には【三咲事業所】【のまる本体】でのご利用していただけるようお示しさせていただきます。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数1位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	計
26年度当初	1	1	38(10)	2	
男 性	1		14(2)		15(2)
女 性			24(8)	(2)	24(10)
計	1	1	28.7	0.8	32.7
年度中増減					
男 性			1(0.9)		0.9
女 性			1()	1(0.4)	1.4
計			2(1.9)	0.4	30.4
27年度当初	1	1	39(9)	1(1)	30.4(14)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	施設入所	短期入所	計
定 員	40	35	7	82
25年度当初契約者数	36	32	9	77
年度内新規契約者数	1	1	1	3
年度内解約者数	1	1	1	3
年度末契約者数	36	32	9	77

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	施設入所	短期入所	計
年間延契約者数	9,396	11,680	3,285	24,361
年間開所日数	261	365	365	991
年間延利用者数	1,923	10,857	1,923	21,376
利用率(%)	91.4	93	58.5	87.7

※短期入所→定員7名

(3)利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

※施設入所・生活介護合算

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男性	1	1	3	5	4	8
女性		1	1		2	1
計	1	2	4	5	6	9
構成比率	2.5	5	10	12.5	15	22.5

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
4	3	1			30	39.5
1	3		1		10	44.8
5	6	1	1		40	
12.5	15	2.5	2.5		100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男性	1	4	8	20	33	5.4
女性		2	2	3	7	5.1
計	1	6	10	23	40	5.3
構成比率	2.5	15	25	57.5	100%	

事業名(入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男性	1	2	5	18	26	5.5
女性		2	2	2	6	5
計	1	4	7	20	32	
構成比率	3.1	12.5	21.8	62.5	100%	5.4

(5)援護市町村区分 ※施設入所・生活介護合算

	船橋市	市川市	白井市	八千代市	千葉市	東京都	
生活介護	35	2	1	2	1	1	40
施設入所	26	2	1	2		1	32

4. 保護者の状況

事業名(施設入所)

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男性利用者	15	2	4	3	1		1	26
女性利用者	4			2				6
計	19	2	4	5	1		1	32

事業名(生活介護)

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男性利用者	17	2	5	4	1		1	30
女性利用者	4			2			1	7
計	21	2	5	6	1		2	37

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
本人中心の支援とは	支援職	H26.4.5	9名	辞令交付式記念講演
新任職員研修	支援職	H26.5.31	4名	
法人合同研修会	支援職	H26.6.28	3名	
新任職員研修	支援職	H26.11.29	6名	
法人合同研修会	支援職	H27.1.31	3名	
他事業所実習	支援職	H27.1.31	1名	ゆたか福祉苑
他法人実習	支援職	H27.2.25	1名	NPO 法人フラット
他事業所実習	支援職	H27.2.18	1名	ゆたか福祉苑
グループホームの支援について	支援職	H27.3.6	1名	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
(社)人・くらしサポート ネットちば	袖ヶ浦事件第3者委員会 中間報告を受けての意見 交換会	H26.6.8	2名	
千葉県社会福祉協議会	障害者(児)福祉施設新任 職員研修	H26.6.10	1名	
千葉県知的障害者福祉協会	平成26年度新任職員研修	H26.6.17	1名	
千葉県知的障害者福祉協会	平成26年度障害者支援施 設部会施設長・職員1泊研 修会	H26.12.4	1名	事例発表
第7回障害福祉を考える合 宿	第7回障害福祉を考える 合宿	H26.12.27	1名	
NPO 全国障害者生活支援 研究会	第16回全国障害者研究セ ミナー	H27.2.14~ H27.2.15	1名	
千葉県	平成26年度強度行動障害 のある方の支援者に対す る研修事業 実践報告会	H27.3.14	1名	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
	H.26.4.1	女性利用者、転倒による右大腿 骨骨折	付き添い・見守りの強化	有	
	H.26.5.24	女性利用者、転倒による右大腿 骨骨折	付き添い・見守りの強化	有	
	H.26.5.27	女性利用者、胸部に火傷上の傷 を発見	付き添い・見守りの強化	有	
	H26.6.16	女性利用者、やかんの湯がかか り火傷をしてしまう	見守り・環境調整の強化	有	
	H.26.7.29	女性利用者、転倒による右足首 骨折	見守り・環境調整の強化	有	
	H26.9.8	男性利用者、所在不明となる	見守り・環境調整の強化	有	
	H26.11.30	男性利用者、転倒による怪我	見守り・環境調整の強化		
	H26.12.21	男性利用者、所在不明となる	見守り・環境調整の強化	有	
	H27.1.26	女性利用者、朝と昼の投薬時間 の感覚が狭くなってしまった	投薬支援時の確認作業の強化		
	H27.2.5	女性利用者、ベッド柵に頭をぶ つけたことによる怪我	見守り・環境調整の強化	有	

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

児童発達支援センター

事業所名 [とらのこキッズ]

1. 平成 26 年度事業活動重点事項及び成果

1、児童発達支援センターとして

- 25 年度に年中児の待機児童解消のため、利用定員を変更して計 37 名受け入れた児童が年長児となり、今年度は契約児童 35 名中 22 名が年長児という卒園・就学を迎える児童の割合が多い年度となりました。
- 日常の活動や行事等に対しては、27 年度に向けて「さざんかキッズ」と「とらのこキッズ」の両施設の療育の質と量を同等に保障する事を前提に、常に検討しながら取り組んできました。

- 今年度は、これまで受け入れてきた難聴児に加えて、初めて盲学校と併用利用する児童の受け入れをしました。年長児からの利用、週 2 日という回数ではありましたが、利用日に保育士を増員し、また盲学校を見学するなど視覚障害のある児童の受け入れ方法を学ぶ機会を設けることで、既存の設備の中でいかに充実した療育を提供できるのかを考えながらの取り組みとなりました。

マンツーマン対応の厳しい体制ではありましたが、学校の夏休み期間には利用日を増やすなど、利用児童の活動の保障を第一に考え受け入れています。

今回の併用利用を受け入れることで、併用利用児に対する活動や行事への参加など支援の組み立て方を学ぶ良い機会にもなりました。重複障害のある児童への必要な療育を保障していく為に、今後も関係機関と連携を深めながら取り組んでいきます。

2、保育所等訪問支援について

- 今年度より初めての取り組みとして保育所等訪問支援を開始しました。25 年度退園児 2 名（年長児）と近隣の幼稚園に通う 2 名（年中児）の支援をしました。幼稚園にとっても初めての試みという事もあり、当初は対象児の付き添いのような存在として見られていた部分も多くありましたが、回数を重ねていく中でそれぞれの特性に合った支援方法を一緒に考えたり、アドバイスを求められたりすることも多くありました。

退園児へのこの訪問支援は、転園することへの大きな不安を抱える保護者にとっても安心して次のステップへと踏み出せるものとして成果を得たと言えます。また、年長児の就学に向けた支援としても大切な役割を担ってきました。

課題としては、関係機関にこの支援が周知しきれないまま終わってしまった事が挙げられます。また訪問に当てる職員を専任として配置できない為に体制が厳しく、この支援への継続制が難しいことも今後の検討課題と考えられます。

3、防災・減災対策について

- ・今年度は災害などの非常時に対する意識を日常的に保つことに重点をおいて対策を行ってきました。これまでも取り組んできている「災害伝言ダイヤル」も時間帯や対象者を広げ（ご家族誰でも参加して頂く等）、また参加状況等を調査する為、参加者にアンケートを取るなどして保護者や職員の意識を高めていくようにしました。
- ・新たな取り組みとして、KYT（危険予知トレーニング）を取り入れ、保育中の様々な場面を設定し、「今災害が起こったらまず何をすべきか」を職員一人ひとりが考え、検討する訓練を行っています。日常的な保育環境の中で「どのような場所が危険なのか」「より安全に児童を守る為に何ができるのか」を考え、保育環境の改善に努めました。
- ・職員研修として初めて「不審者対応講習」を行いました。船橋東警察より署員を派遣して頂き、実際に起こった不審者による事件について、どうすれば被害を最小限にすることができたのか、また実際に不審者が園内に侵入してしまった場合の対応策などについて具体的にアドバイスを頂きました。

4、「さざんかキッズ」開設に向けて

- ・国からの内示の遅れと工事の着工等の遅れから27年4月開園が危ぶまれる中の新入園児申し込みの受け入れや定期的な設計事務所との会議、補助金の申請などこれまでにない、非常に慌しい年になりました。
- ・市からの委託を受け「さざんか学園」からの引継業務として、とらのこキッズの療育を通常に継続しながらかなり厳しい勤務体制の中で観察保育に出かけました。肢体不自由児を受け入れる為の研修として東西「簡易マザーズホーム」への研修や近隣の児童発達支援センターへの見学など、さざんかキッズ開園に向けての実務的な準備作業も同時に行ってきました。新規事業「保育所等訪問支援」への取り組みも重なる中、職員一人ひとりが「とらのこキッズ」児童への日々の療育を保障する為にこれまで以上の頑張りを見せ、一致団結して取り組んで参りました。
- ・7月開園と正式に決まった段階で、継続児の療育場所と新入園児の受け入れ方と人数について市と密に検討を重ねて来ました。また、開設の遅延に対して新入園児の保護者へは、関係機関の協力を仰ぎながら「さざんかキッズ」の建設の進捗状況と受け入れの方向性を説明に出向く等、その都度保護者の不安や疑問に答えて来ました。
- ・年度末までに年長・年中児は4月から、年少児は全員「さざんかキッズ」にて7月からの受け入れができる事が決まりました。懸念されていた利用頻度についても週5日の療育を提供できる見通しとなり、工事の遅れなど関係者の皆様にご心配をおかけすることの多かった中、唯一の明るいニュースとしてお伝えすることができました。

5、施設整備など

- 開園当初より補修を重ねてきた保育室の引き戸について、開閉の不具合や破損がひどくなり全改修しました。
- 施設全体の照明器具を平成 26 年 1 月 LED(リース)に交換工事を行いました。導入当初は前年度比較で—20%の削減効果が確認され、その後最大—30%近くを達成した月もありましたが、日照時間が短くなるにつれ光熱費としてはほぼ導入前と同程度の光熱費となっています。(別紙参照)
- 導入前より経費としては増加していますが、点灯までに時間の要する水銀灯と比較すると保育環境は改善され、メンテナンス性も向上しました。また、災害時など万が一落下するようなことがあっても飛散しない素材の為安全性も高まりました。
- 緊急時の対応のひとつとして小児用の AED(リース)を設置し、職員全体で使用方法の研修を実施。また、保護者にも消防署を招いて救急法の講習の中で実施しました。

6、研修の充実と人材育成

- 「さざんかキッズ」開設に向けた研修として、肢体不自由児や重症心身障害児の療育に対応するため、対象児のいる支援センターの見学や 4~5 日連続して受講する療育施設での研修などにも積極的に参加してきました。
- 各種専門職の必要性から、年度内より人材を雇用し「さざんかキッズ」と兼務して必要な支援を提供していく為の体制づくりに取り組んできました。

2. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話人 保育士等	看護師	調理員 栄養士	その他 (運転士等)	計
26年度 当初	1	1	常勤 13 非常勤 6 (4.0)	0	常勤 1 非常勤 1(0.9)	常勤 1 非常勤 5 (2.7)	常勤 17 非常勤 12 29 (24.6)
男 子	0	0	常勤 1	0	0	1 (0.5)	2 (1.5)
女 子	1	1	常勤 12 非常勤 6 (4.0)	0	常勤 1 非常勤 1(0.9)	常勤 1 非常勤 4 (2.2)	常勤 16 非常勤 11 27 (23.1)
計	1	1	19 (17.0)	0	2 (1.9)	6 (2.7)	29 (23.7)
年度中 増減	0	0	常勤-1 (育児休暇) 非常勤+2 (1.2)	0	0	非常勤 1 (0.2)	常勤-1 非常勤+2 (1.2)
男 子	0	0	0	0	0	0	0
女 子	0	0	常勤-1 非常勤+2 (1.2)	0	0	非常勤 1 (0.2)	常勤-1 非常勤+2 2 (1.2)
計	1	1	常勤-1 非常勤+2 (1.2)	0	0	非常勤 1 (0.2)	常勤-1 非常勤+2 2 (1.2)
27年度 当初	1	1	常勤 12 非常勤 4 (2.7)	1 (兼務)	常勤 2 (栄養士1兼務) 非常勤 1(0.9)	常勤 1 非常勤 5 (1.8)	常勤 17 非常勤 10 27 (22.4)

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
定 員	0	30	30
26年度当初契約者数	4	35	35
年度内新規契約者数	0	0	0
年度内解約者数	0	1	1
年度末契約者数	4	34	34

(2) 利用率

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
年間延契約者数	4	381	385
年間開所日数	—	241	241
年間延利用者数	—	6,934	6,934
利用率	—	83.1%	83.1%※

※児童発達支援の実利用者数による計算

(3) 利用者の年齢区分(平成26年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	24	0	0	0	0	0
女子	11	0	0	0	0	0
計	35	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	24	4.1
0	0	0	0	0	11	4.0
0	0	0	0	0	35	
0	0	0	0	0	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成26年4月1日時点)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					100%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率					100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	35	0	0	0	0	35
						100%

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	24	0	0	0	0	0	0	24
女子利用者	11	0	0	0	0	0	0	11
計	35	0	0	0	0	0	0	35
平均年齢	38.1							
最高年齢	48							

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
辞令交付式 記念講演	全員	H26.4.5	19名	
第1回新人研修	新採用職員	H26.5.31	2名	
法人全体研修	支援職	H26.6.28	10名	
法人全体研修	支援職	H26.10.25	11名	
法人世話人研修	サビ管	H26.10.31	1名	
法人全体研修	支援職	H27.1.31	12名	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害者福祉協会	第 1 回児童施設部会	H26.5.12	1	
心身障害児総合医療療育センター	第 59 回重度重症児(者)医療療育(基礎)講習会	H26.5.13 ~ H26.5.16	1	
千葉県社会福祉協議会	新任職員研修	H26.6.9	1	
船橋市総合教育センター	法典小学校見学	H26.6.9	1	
船橋市子育て支援部保育課	摂食指導研修①	H26.6.12	1	
船橋市総合教育センター	船橋市特別支援学校見学	H26.6.13	2	
船橋市総合教育センター	三咲小学校見学	H26.6.13	1	
船橋市総合教育センター	薬円台小学校見学	H26.6.16	1	
船橋市総合教育センター	船橋市特別支援学校見学	H26.6.16	2	
船橋市子育て支援部保育課	摂食指導研修②	H26.6.19	1	
船橋市総合教育センター	高根台第3小学校見学	H26.6.20	1	
全国児童発達支援協議会	関東ブロック大会	H26.6.21	3	
船橋市総合教育センター	峰台小学校見学	H26.6.23	2	
船橋市総合教育センター	湊町小学校見学	H26.6.24	1	
船橋市総合教育センター	八木が谷小学校見学	H26.6.25	1	
船橋市総合教育センター	大穴小学校見学	H26.6.26	2	
船橋市総合教育センター	習志野台第2小学校	H26.6.27	2	

千葉県 健康福祉部障害福祉課	千葉県相談支援従事者 等専門コース研修	H26.6.27	1	
千葉県立千葉盲学校	県立千葉盲学校見学	H26.6.28	1	
千葉県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	H26.7.1	2	
千葉県 健康福祉部障害福祉課	千葉県相談支援従事者 等専門コース研修	H26.7.2	1	
全国児童発達支援協議会	第5回全国大会	H26.7.3	1	
千葉県歯科医師会	口腔機能の発達	H26.7.6	1	
千葉県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	H26.7.23	1	
船橋市 子育て支援部保育課	摂食指導③	H26.7.24	1	
公益社団法人 発達協会	夏季セミナー	H26.8.1~2	1	
公益社団法人 発達協会	夏季セミナー	H26.8.2	1	
船橋市歯科医師会	さざんか歯科摂食指導	H26.8.3	1	
公益社団法人 発達協会	夏季セミナー	H26.8.3 ~8.4	2	
千葉県 健康福祉部障害福祉課	相談支援従事者初任者 研修（講義）	H26.8.5 ~8/7	1	
日本てんかん協会	第37回てんかん基礎 講座	H26.8.5 ~8.6	1	
千葉県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	H26.8.6 ~8.7	1	
公益社団法人 発達協会	夏季セミナー	H26.8.7 ~8.8	1	
公益社団法人 発達協会	夏季セミナー	H26.8.8	1	
千葉県知的障害者福祉協会	相談支援部会	H26.8.25	1	
船橋市子育て支援部	発達障害の理解と保護 者支援	H26.8.28	2	

船橋市歯科医師会	さざんか歯科摂食指導	H26.9.7	2	
船橋市総合教育センター	船橋特別支援学校見学 (中学部・高等部)	H26.9.9	1	
千葉県 健康福祉部障害福祉課	相談支援従事者初任者 研修(演習)	H26.9.11 ~8.12	1	
社会福祉法人 桐友学園	きりともセミナー	H26.9.18	1	
日本音楽療法学会	全国大会	H26.9.18 ~9/21	1	
日本興亜損保	苦情対応セミナー	H26.9.22	1	
県立船橋特別支援学校	地域支援のための自立 活動(医療的ケア等)	H26.9.30	3	
千葉県 健康福祉部障害福祉課	児童発達支援管理責任 者研修	H26.10.29	1	
千葉県 健康福祉部障害福祉課	千葉県障害者計画葛南 地域フォーラム	H26.11.14	1	
千葉県 健康福祉部障害福祉課	児童発達支援管理責任 者研修	H26.11.17 ~11.18	1	
船橋市手をつなぐ育成会	知的障害児者に対する 医療の在り方	H26.11.20	1	
船橋市 東簡易マザーズホーム	見学と摂食指導	H26.11.26	1	
船橋市歯科医師会	さざんか歯科摂食指導	H26.12.7	1	
心身障害児総合医療 療育センター	第60回重度重症児 (者)医療療育(基礎) 講習会	H26.12.2 ~12.5	1	
船橋市 東簡易マザーズホーム	見学と摂食指導	H26.12.11	1	
船橋市 東簡易マザーズホーム	見学と摂食指導	H26.12.17	1	
心身障害児総合医療 療育センター	第47回幼児通園施設 療育職員研修会	H27.1.26 H27.1.30	1	

心身障害児総合医療療育センター	第47回幼児通園施設療育職員研修会	H27.1.27	1	
心身障害児総合医療療育センター	第47回幼児通園施設療育職員研修会	H27.1.28	1	
心身障害児総合医療療育センター	第47回幼児通園施設療育職員研修会	H27.1.29	1	
船橋市東簡易マザーズホーム	見学と摂食指導	H27.2.5	2	
全国児童発達支援協議会	個別支援計画の作成について	H27.2.7	1	
船橋市東簡易マザーズホーム	見学と摂食指導	H27.2.10	1	
船橋市さざんか学園	見学と引継（看護職）	H27.2.13	2	
心身障害児総合医療療育センター	第60回重度重症児（者）医療療育（基礎）講習会	H27.2.17 ~2.20	1	
市川市こども発達センター	おひさまキッズ見学（重症心身障害の療育）	H27.2.23	2	
船橋市西簡易マザーズホーム	見学と引継（PT）	H27.2.23	1	
船橋市西簡易マザーズホーム	見学と引継（看護職）	H27.2.25	2	
船橋市東簡易マザーズホーム	見学と引継（PT）	H27.3.3	1	
船橋市西簡易マザーズホーム	見学と引継（PT）	H27.3.10	1	
市川市らいおんハート	児童デイの見学	H27.3.12	2	
心身障害児総合医療療育センター	摂食講習（応用編）	H27.3.18	2	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考

※今年度、行政への届け出を伴う怪我や事故はありませんでした。

平成26年度

社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名

〔笹川なずな工房〕

1. 平成26年度事業活動重点事項及び成果

(1) 作業について

平成26年度の作業売上げは24,691,481円ありました。ほぼ2,500万円です。定員が20名なので、一人あたりで言えば120万円になります。はっきり言ってこれは凄いことです。3年前に売上げが2,000万円をオーバーした時に、私が冗談99%で「この次の目標は3000万円だな。」といったところ、支援職員から「冗談でもそれは無理。」とピシッと言われてしまいました。ここまで来るとジョークにはなりません。本当に3000万円という数字がちらつき始めました。売上げ増のからくりは消費税分だけ価格を上げた事が大きな要因です。他企業ではその為に売上げが落ちているのですが、当施設はそれでも販売個数も上がってきています。笹川の地は米所です。基本、食事の中心は米食です。でも人は時々パンも食べたくになります。そんな時にどうせ食べるのなら「市販」のパンでなくもっと美味しいものが良い。パン専門店の中で味はもちろんのこと、価格も安い商品として、ここ東総の地の顧客ニーズに合った品物作りが、功を奏しました。26年度も売りに来てほしいという要望が沢山ありました。地域と密着したパン屋さんになっていきます。

(2) 就労について

年度を跨ぎますが、26年5月に1名、27年4月に1名を就労させました。前者は県立東部図書館、後者は北総育成園です。昨年度から法律が改正され、全従業員の2%の障害者の雇用をしなければいけません。つまり法律で義務付けられていてこそ、障害者の雇用は成り立っており、決して簡単なものではないのです。また企業も障害者雇用に責任があるという事です。また送り出す施設に対しても2年間雇用実績がない場合は容赦なく減算(20%)のペナルティがあります。まさに真剣勝負。幸いな事に当施設の利用者は本当にまじめに働くと評判で、共に働く人が助けてくれます。そこが大切だと思いますスキル(技術)は徐々に習得していきませんが、働く意欲は一日二日では身に付きません。当施設の利用者は本当に働くことが好きな人に育ててきました。そこが就労に向けてのポイントだと思います。

(3) 職員のスキルアップ

福祉は労働集約型産業の代表です。それだけ人(職員)の力に負うものがあります。職員のスキルアップを図るために資格の取得を奨励してきました。受験資格のない新職員を除いて、支援員は全員介護福祉士の資格を受験して取りました。(新職員は保育士の資格を持っています。)資格を有する事がその支援の内容を保証するものではありません。しかし、資格を取るためにはそれなりの勉強や努力をしなければ取れません。それは遊びに行きたいとかの気持ちに打ち勝って勉強の時間を作ることです。強制でなく自発的に。笹川なずな工房の職員はそれだけ仕事を真剣に打ち込む気持ちがある職員であるとの証です。このような職員が揃っていることが当施設の最大の強みです。

26年度は介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格の挑戦をして、1名が合格をしました。現在ではケアマネージャーの資格は合格率20%以下の難関資格です。よく頑張りました。また料理の非常勤職員の1名も調理師の資格を取りました。

(4) 設備について

基本的な建物および作業のための機械は平成23年度からの3年計画で、整備したので今後7～8年は大丈夫と言えます。しかし100%というわけではないので。フライヤー等の作業機械やエアコンダクトの整備等はしました。

大きな事業としてはグループホーム開設に向けた建築ですが、GHの外観も笹川なずな工房と一体化したデザインであり野の花公園の整備を含めて美観地区と呼ばれるようにしていきたいです。

(5) 地域との関係について

地元東庄町は人口が1万4千人の小さな町です。農業以外にこれといった産業はありません。有名なのはカブとイチゴです。笹川なずな工房のイチゴは地元の「磯山いちご園」さんより無償で頂いてきます。このイチゴを加工してイチゴジャムを作ります。このように地場産業とタイアップをして27年度も事業展開をしています。

(6) 情報公開

本年度も保護者と施設が協力して、施設運営をしていく為に、毎月2回以上施設発の「お知らせ」を発行してきました。利用者の近況やめまぐるしく変わる福祉制度をその都度情報を提供してきました。当施設は利用者も字を読める人が多いので、毎月の予定も休業日は赤印、特別行事は黄色印をつけ分かりやすい表記になっており、利用者にとっても大切な情報源となっています。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数点1位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
26年度当初	1	1	7	0	1	1	10
男子			2 ()	0 ()	()	()	()
女子			4 (1)	()	(1)	1 ()	()
計	1	1	7	0	1	1	10
年度中増減	0	0	0	0	0	0	0
男子	0	0	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
女子	0	0	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
計	0	0	0	0	0	0	
27年度当初	1	1	7 (1)	0 ()	1 (1)	2 (1)	10 (3)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	就労移行	就労継続B			計
定員	6	14			20
26年度当初契約者数	8	19			27
年度内新規契約者数	0	0			0
年度内解約者数	1	0			1
年度末契約者数	7	19			26

(2) 利用率

利用事業名	就労移行	就労継続B			計
年間延契約者数	1,906	5,111			7,017
年間開所日数	269	269			269
年間延利用者数	1,786	4,536			6,322
利用率	111%	120%			117.5%

(3)利用者の年齢区分(平成26年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子	1	6	4	3		1
女子	1	3	3	2	1	
計	2	9	7	5	1	1
構成比率	7%	33%	26%	19%	4%	4%

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
1	1				16	28.3
					11	27.6
1	1				27	
4%	4%				100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成26年4月1日時点)

事業名(就労移行)

区分	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	1	1			5	7	
女子	0	0			1	1	
計	1	1			6	8	
構成比率						100%	

事業名(就労継続B型)

区分	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	1	4	2	1	1	9	
女子	2	2	3	0	3	10	
計	3	6	5	1	4	19	
構成比率	3	6	5	1	4	100%	

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	東庄町	銚子市	香取市	佐原市	その他		計
						県内	県外	
男	0	2	5	7	1	0	1	16
女	1	4	1	5	0	0	0	11
合計	1	6	6	12	1	0	1	27

保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	10	1	4	1				16
女子利用者	9	1			1			11
計	19	2	1	1	1	0	0	27
平均年齢								
最高年齢								

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
法人事務研修	事務員	6/24	1	年2回 開催
北総の里一泊研修	常勤職員	8/2	8	
工賃査定会議	支援員	毎月実施	7	事例研究
グループホーム研修	施設長	2/26	1	宿泊体験

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
鹿島食品	鹿島食品展示会	6/14	2	年2回
千葉福祉協会	施設長研修	6/13	1	
千葉福祉協会	安全講習		1	草刈り払い機
日精研	春季講座	3/29	1	

5. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届出	備考
1		職員が食パン切り機に手を突っ込み左手中指を切る	器具の典型をし、パン捏ね機にカバーを付ける	労基署に届出	労災認定

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)
事業所名
〔 カメリアハウス 〕

1. 平成 26 年度事業活動重点事項及び成果

(1) 製菓作業の充実と販路の拡大

製菓作業について専用のスペースを設け、保健所より営業の許可を得て、より生産を効率的かつ量産可能の体制をとることとした。

結果、衛生面や生産面での環境向上は飛躍したようだ。何より、利用者各位がより積極的に製菓作業に臨む姿勢が顕著となった。

また、振興センターによる製菓作業に対する点検や検証、アドバイスを受け機会があり、専門的見地からの助言等を頂戴して大変参考とすることができた。

販路拡大については飛躍的とはいかなかったが、各種バザー等については積極的に出店を図った。

まだまだ創意、工夫の余地はあるのでありこれからも引き続き努めて行きたい。

(2) コンスタントな受注と作業

繁忙期とそうでない時の差が著しい傾向が見られた。ともすれば、作業意欲が萎れて来はしないか、とまで懸念するほどの時もあり、利用者各位が折角作業意欲をもって通って来ても、その思いに答えられないのは大変失礼でもあった。

下請け作業について、コンスタントな受注を約束して年間を通して作業の継続が約束されるような環境整備に腐心する。

結果、以前のように一日レクリエーションで過ごすようなことは激減することができた。

特に、B 型事業については気を付けて行きたい。

(3) 各自の技量、適正に応じた活動の展開

生活介護については、その活動内容は柔軟に且つ自由に組み立てることができるのであり、生産活動を始め趣味的活動やリハビリ的なものまで幅を持たせることができる。

一人一人に応じた、それだけ主体的に取り組むことのできる活動内容を探し提供きたわけであるが、これからもより一人一人に応じたプログラムを提供して行きたい。

(4) 長欠利用者の状況把握と支援の必要

様々の理由から長期に亘り、事業所の利用ができない利用者が複数名あり、これらの人たちの状況の把握と利用の促進が課題となる。

定期的にご自宅を訪問し、状態を把握しているがコンスタントな利用に結び付くケースばかりとは限らない。ご本人の状況から、当然他のサービス機関等との連携も要される。地域の中で、決して孤立することのないよう適切なコンタクトを保持しながら、より安心できる生活が送れるように当事業所でできることは努めて行く。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士 等)	計
26年度当初	1	1	10	1		6	19
男 性	1	1	2 ()	()	()	1 (1)	5 (1)
女 性			8 (5)	1 (1)	()	5 (4)	14 (10)
計	1	1	10	1		6	19
年度中増減			2				2
男 性	1	1	4 (2)	()	()	1 (1)	7 (3)
女 性			8 (5)	1 (1)	()	5 (4)	14 (10)
計	1	1	12	1		6	21
27年度当初	1	1	12 (7)	1 (1)	()	8 (7)	23 (15)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
定 員	23	12			35
26年度当初契約者数	29	15			44
年度内新規契約者数	1	0			1
年度内解約者数	1	2			3
年度末契約者数	29	13			42

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
年間延契約者数	7,221	3427			10648
年間開所日数	249	249			
年間延利用者数	5275	2887			8162
利用率	73%	84.2%			76.7%

(3)利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男性	3	10	0	3	7	3
女性	1	1	1	1	2	2
計	4	11	1	4	9	5
構成比率	10%	26%	2%	10%	22%	12%

46~50	51~55	56~60	61~65	66歳以上	計	平均年齢
2	0	0	2	0	30	33.1
1	1	1	1	0	12	40.9
3	1	1	3	0	42	35.2
7%	2%	2%	7%	0%	100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男性	5	9	8	1	23	4.00
女性	3	2	0	1	6	3.83
計	8	11	8	2	29	4.14
構成比率	27.5%	38%	27.5%	7%	100%	

事業名(就労継続支援B型)

区分	1	2	3	4	計	平均区分
男性	2	3	2	0	7	2
女性	0	3	1	1	5	2.6
計	2	6	3	1	12	2.25
構成比率	17%	50%	25%	8%	100%	*非該当1名

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男性	27	2		1		30
女性	9	3				12
計	36	5		1		42
構成比率	86%	12%		2%		100%

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	23	1	6					30
女子利用者	7		3	1			1	12
計	30	1	9	1			1	42
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
全体研修	全職員	26年6月28日	6人	コミュニケーション研修
全体研修	全職員	26年10月25日	6人	モチベーションを高める「志授業」
全体研修	全職員	27年1月21日	6人	より良い支援のために

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	26年7月23, 24日	1人	
日本てんかん協会	てんかん基礎講座	26年8月5日	1人	
船橋市保健所	営業許可講習会	26年10月21日	1人	
船橋市障害福祉課	ジョブサポーター養成研修	27年1月27日	1人	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行先の届出	備考

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔魔法のランプ(居宅介護部門)〕

1. 平成 26 年度事業活動重点事項及び成果

(1) 介護給付事業

(ア) 居宅介護事業(身体介護・家事援助・通院等介助)

- 居宅において、入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言、その他の生活全般にわたる援助を行いました。又、病院への通院のための介助を行いました。

(イ) 重度訪問介護事業

- 重度の肢体不自由者で常に介護を必要とする人に、自宅で入浴、排泄、食事の介護、外出時における移動支援などを総合的に行いました。

(ウ) 行動援護事業

- 自己判断が制限されている人が行動するとき、危険を回避するために必要な支援、外出支援を行いました。

(エ) 同行援護事業

- 視覚障害により移動に著しい困難を有する障害者（児）に対し、移動時及びそれに伴う外出先において、必要な視覚的情報の支援や移動の援護、排泄・食事等の介護、その他外出する際に必要となる援助を実施してきました。

(2) 地域生活支援事業

(オ) 移動支援事業

- 社会生活上必要不可欠な外出、余暇活動等の社会参加のための外出等、外出への支援を行いません。内容として、個別対応のサービスのみを実施しています。朝・夕の送迎支援を実施してきました。

(3) 宿泊サービス

- 当事業所の私的サービスです。当事業所内での宿泊を実施しています。理由はご家族のレスパイト的な要素で宿泊されることが多くありました。

(4) 福祉有償運送事業

- 当事業所にある自家用車 2 台(ワゴン R、車椅子仕様車スロープタイプ)を利用して、サービス時の移動や送迎などに利用しています。基本的には上記のサービスを絡めてご契約者様にはお願いし、実施しています。
- 成人利用者様限定で実施しています。
- 車を利用しての上記の事業を併用するニーズが有り、利用率が若干増えています。

(5) 成果について

➤ (1)～(4)までの事業の成果については、別紙 1～7 を参照。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数値1位四捨五入

	管理者	サビ提 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士 事務員	その他(登録 ヘルパー等)	計
26年度当初	1	2	7		1	14	23
男子	1	2 支援者兼務	4 (1)	()	()	6 (6)	13 (8)
女子			3 (1)	()	1 (1)	8 (8)	12 (10)
計	1	2	7		1	14	23
年度中増減	-1		-2			-4	-7
男子	1 サビ提支援者兼務	2 支援者兼務	4 ()	()	()	5 (5)	12 (5)
女子			2 ()	()	1 (1)	6 (6)	8 (6)
計	1	2	6		1	11	20
年度中増減			+1			-1	0
27年度当初	1	2	5 ()	()	1 (1)	10 (10)	20 (17)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	障害福祉サービス事業				地域生活 支援事業	計
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	
定員						
26年度当初契約者数	43	10	24	5	181	263
年度内新規契約者数	29				3	32
年度内解約者数		2			1	3
年度末契約者数	72	8	24	5	183	292

※ 障害福祉サービス事業と地域生活支援事業の契約重複者含む

(2) 利用率

利用事業名	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	計
年間延契約者数	43	10	24	5	190	272
年間開所日数	365	365	365	365	365	365
年間延利用者数	37	7	21	3	110	178
利用率	0.1	0.01	0.06	0.008	0.3	

(3) 利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

年齢区分	0~5	6~10	11~15	16~18	19~20	21~25
男子		4	3	6	13	21
女子		0	3	2	2	3
計		4	6	8	15	24
構成比率		2.19	3.28	4.37	8.20	13.11

26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60
6	12	22	25	14	3	2
7	2	8	13	6	4	1
13	14	30	38	20	7	3
7.10	7.65	16.39	20.77	10.93	3.83	1.64

61~65	65歳以上				計	平均年齢
1					132	
0					51	
1					183	
0.54					100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名(居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)

区分	なし	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	4	0	5	12	14	16	51	
女子	1	1	3	0	2	10	17	
計	5	1	8	12	16	26	68	
構成比率	7.35	1.47	11.76	17.65	23.53	38.24	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子(成人)	115	2				117
女子(成人)	45			2		47
男子(児童)	14					14
女子(児童)	5					5
合計	179	2		2		100%

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	96	4	28	5	2			135
女子利用者	31	0	14	3	0			48
計	127	4	42	8	2			183
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
記念講演会	法人S	26年4月5日	6人	
第1回合同研修会	直接処遇S	26年6月28日	5人	
第2回合同研修会	直接処遇S	26年10月25日	1人	
DDホームズ研修会	調節処遇S	26年10月31日	2人	
第3回合同研修会	直接処遇S	27年1月31日	5人	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
NPO 法人ラフト	自閉症研修	26年4月19日	1人	
NPO 法人ラフト	ざだんかいvol.2	26年7月17日	3人	
NPO 法人ラフト	自閉症者の特性について	26年10月18日	4人	
NPO 法人ラフト	関わり方の基礎～行動分析の観点から	26年11月15日	4人	
地域づくりフォーラム実行委員会	第7回地域づくりフォーラム～人それぞれの暮らしと遊び～	25年11月16日	1人	
NPO 法人船橋福祉相談協議会	計画相談を上手に使った私の暮らし	26年11月22日	1人	
障害者自立支援センターCAS	チームKの挑戦～父と息子の歩み～	26年11月22日	1人	
千葉県総合支援協議会	千葉県障害者計画フォーラム	26年12月23日	1人	
NPO 法人ラフト	ざだんかいvol. 3	26年12月26日	2人	
千葉つながる福祉塾	千葉つながる福祉塾	27年2月13日	2人	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	4月24日	プラットフォームと電車の隙間に片足を落とす。	乗降時には手を差し伸べて一緒に行動。	無	
2	6月4日	ご利用者様がヘルパーへ暴力を振るう。	ヘルパーは否定的な声掛けをしない。希望通りの移動をする。	無	
3	7月12日	サービス時間の連絡ミスの為、開始時間に遅れる。	ヘルパーに前日確認する時間に記載ミスがないように、再度確認して送る様にする。	無	
4	7月20日	ヘルパーによる遅刻の為のサービス開始時間の遅れ。	ヘルパーには早めの行動をとる様に指導しています。	無	
5	7月27日	他事業所とのサービスダブルブッキングによる他事業所ヘルパーへのキャンセル料支払い	調整段階での二重チェックと相手方の確認を必ず取る。	無	始末書として理事長に提出

6	8月19日	ヘルパーによる遅刻の 為のサービス開始時間 の遅れ。	寝過ごしが原因の様 なので、アラームを多 目に設置し、意識を高 める様に指導。	無	
7	8月22日	昼食後の抜薬。	会計時にでも気づく 様にお預かりした財布 の中に薬を入れる ように対策	無	
8	8月31日	ご利用様様のプール用 ゴーグルを紛失。	ご利用者に任せるの ではなく、ヘルパーも ご利用者の持ち物を 確認する。	無	
9	9月11日	発作による転倒で、慌 てて起こそうとして擦 り傷を負わせてしま う。	エスカレーターでの 発作だったので、なる べくエレベーターを 使用する。	無	
10	9月28日	宿泊し、サービスを実 施し帰宅した際にご本 人様に傷があることが 判明。	必ず、帰宅する前に体 のチェックを行い、傷 がないか確認する。	有	障害福祉 課より指 導があり ました。
11	11月19日	有償運送サービス中、 後方未確認による人身 の接触事故	発進前の十分な周囲 確認を徹底。	有	地域福祉 課と、障 害福祉課 に報告
12	11月22日	ご利用者男児と女性ヘル パー対応でトイレに 行かれた際に見ず知ら ずの男性に放置してあ った飲料物を掛けてし まった。	多目的トイレに入る 様に誘導する。	無	
13	12月13日	サービス中、ベンチに 療育手帳の入った袋を 置き忘れ、紛失。	近くのコンビニに届 けてくれた方がいて、 発見。今後はランプの 用意した貴重品袋に 入れるように指導。	有	
14	12月14日	サービス開始時間のヘル パーの勘違いによる 遅れ	いつもと違う時間か らのスタートだった ので、しっかりと出発 前に確認する。	無	

15	12月27日	段差の踏み外しによる転倒。	利用者の行動予測を行い、危険を予知することを意識して頂く。	無	
16	1月18日	サービス開始時間のヘルパーの勘違いによる遅れ	きちんと、時間を確認し、アラームを掛けるなどの対策をする。	無	
17	3月3日	ヘルパーの体調不良によりサービス開始時間に間に合わず、利用者の見失い。	約1時間後に自宅前にて発見。体調不良の際には早めに連絡を入れ、対応策を講じる。	無	
18	3月24日	宿泊し、サービスを実施し帰宅した際にご本人様に傷があることが判明。	一緒に行動するなど、怪我への配慮を充分に行う。	無	

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

[事業所名魔法のランプ相談]

1. 平成 26 年度事業活動重点事項及び成果

国の施策として平成 27 年 3 月末までに、全ての指定障害福祉サービス事業を利用する方に、サービス等利用計画書の作成を義務付けることとなり、船橋市においても急ピッチでその作業を進めたが、市内十数ヶ所での事業所だけでは対応できるはずもなく、結果として「セルフマネージメント」（セルフプラン）で乗り切るケースが多数となりました。

当事業所においても、2 名の相談支援専門員がそれぞれ 30 名～40 名の契約者への計画書作成追われるだけでなく、そのプロセスで発生する支援（例：病院への付き添い、新規サービス利用者への事業所への付き添い、個別支援会議出席等）に対応せざる得ない状況がありました。その結果ご希望者を御断りする事態も起こり、次年度に大きな課題を残しました。

次年度については早急の対応として、事業所単独の問題でなく法人全体でこの事業に取り組む方法の再検討が不可欠と考えます。

また各事業所で従事する者に対しても、この制度が「誰の、何のためにあるのか」という制度の根本を学ぶための学習会、研修会への参加等が必要と思えます。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
26年度当初							
男子			()	()	()	()	()
女子			()	()	()	()	()
計							
年度中増減							
男子			()	()	()	()	()
女子			()	()	()	()	()
計							
27年度当初			()	()	()	()	()

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	児童発達支援		計
定員					
26年度当初契約者数					
年度内新規契約者数					
年度内解約者数					
年度末契約者数					

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続B	児童発達支援		計
年間延契約者数					
年間開所日数					
年間延利用者数					
利用率					

(3) 利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

年齢区分						
男子						
女子						
計						
構成比率						

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

事業名()

区分						
男子						
女子						
計						
構成比率						

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市	鎌ヶ谷市	習志野市	その他		計
					県内	県外	
男子							
女子							
計							
構成比率							

4. 保護者の状況(平成27年4月1日時点)

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者								
女子利用者								
計								
平均年齢								
最高年齢								

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県	相談支援従事者研修会	11月5日	1	
船橋福祉相談協議会	計画相談を使った私の暮らし	11月22日	1	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考

平成26年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名〔DDホームズ〕

1. 平成26年度事業活動重点事項及び成果

(1) 支援のあり方

一人ひとりの意思が尊重され「自分らしく生きる」ことや、目の前の障害のあるご本人の思いに寄り添い「その人らしい暮らし」を作ることが視点とする。そんな支援のあり方を実践してきました。また、個々の特性や状況を把握し最も必要と思われるニーズを選択し反映させる為に、個別支援計画で具体的なところを記述することで、その都度立ち返り検証することにも努めてきました。

(2) 安全面について

一般的に生活の場面での事故などは家屋内での発症率が高いとされています。特に入浴時の介助には細心の注意を払ってきました。また、移動時における僅かな段差への注意など、建物の構造上の問題においても配慮してきました。例えば転倒の際にケガが予測される箇所にラバーを付けたり等々。しかしながら、ホームによっては打撲や裂傷などの報告を受けています。今後は改善されるように対処していきたいと思えます。

(3) 健康について

日々の調子については、親御さんや看護職員や日中関わっているスタッフとの情報交換を経て、体調の変化等に目を向けてきました。今後は年齢を重ねるにつれて、健康面については更なる配慮が必要になってくると思われるので寒暖の差や季節ごとにきめ細やかな支援が求められると考えます。日常生活を普通に過ごし「有意義な」生活をつつがなく送るには、健康でいられることが最も大切だと考えます。

(4) 食事提供について

平成23年の初夏に食中毒の発生があり、短期的ながら閉鎖を余儀なくされたホームがありました。その苦い経験から、保健所に依頼して専門家を招いての衛生講習をホームに携わる全員が受講することで、調理の際の安心安全の意識を高めてきました。おいしく食事をする事は、ホームでも健康で楽しく生活を送る上での基本となります。その点を踏まえ、各ホームでバラエティに富んだ食の提供を日々継続してこられたと思えます。

(5) 防災と設備について

グループホームにおいて火災による死亡事故が多発している昨今では、より高いレベルの意識をもって防災対策に取り組んでいく必要性があります。災害時等に備え消防計画に基づいて、災害の予防と人命の安全を最優先に考えています。月ごとの避難訓練の実施を継続し、防災教育として自主的な研修の参加もしてきました。また、消防の立ち入りなどの査察も順次実施されてきました。その際の指摘事項に関しては、提携の防災関連会社のバックアップを受けその都度対処してきました。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数1位四捨五入

	管理者	サピ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
26年度当初	1	2	18				21
男子	1	1	8 (4)	()	()	()	10 (4)
女子		2	10 (9)	()	()	()	10 (9)
計	1	2	18				21
年度中増減			5				5
男子			0 (0)	()	()	()	0 (0)
女子			5 (5)	()	()	()	5 (5)
計	1	2	23				26
27年度当初	1	3	22 (16)	()	()	()	21 (16) 常勤換算 (7.4)

*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を()内に別記する。

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	共同生活援助				計
定員	40				40
26年度当初契約者数	38				38
年度内新規契約者数	0				0
年度内解約者数	0				0
年度末契約者数	0				0

(2) 利用率

利用事業名	共同生活援助				計
年間延契約者数					
年間開所日数	365				
年間延利用者数	9290				
利用率	70.7%				

(3)利用者の年齢区分(平成27年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	2		1	2	2	12
女子			1			4
計	2		2	2	2	16
構成比率	5.3%		5.3%	5.3%	5.3%	42%

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
11				1	31	42.9
1	1				7	43.4
12	1			1	38	
32%	2.6%			2.6%	100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成27年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	0	1	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	2	1	4	5	9	5	5	29	3.96
女子	0	0	0	2	3	1	1	7	4.14
計	2	1	4	7	12	6	6	38	3.95
構成比率	5%	2%	11%	18%	31%	16%	16%	100%	

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市	鎌ヶ谷市	習志野市	その他		計
					県内	県外	
男子	31				0		31
女子	6				1		7
計	37				1		38
構成比率	97.4%				2.6%		100%

4. 保護者の状況（平成 27 年 4 月 1 日時点）

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	16		5	7	2		1	31
女子利用者	2		3	2				7
計	18		8	9	2		1	38

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第1回グループホーム事業所研修会	全職員	平成26年 10月31日	16名	
第2回グループホーム事業所研修会	全職員	平成27年 3月6日	14名	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害者福祉協会	管理者・サビ管対象研修会	平成26年 6月30日	1名	
千葉県健康福祉部障害福祉課	千葉県障害者計画フォーラム	平成26年 12月23日	1名	

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	4月30日	グループホーム内で転倒し背中を打撲	服薬が変更されたことで薬へのこだわり。家庭との連携を深める	届け済み	GH内
2	8月6日	グループホーム内で顔面に負傷	世話人が歯磨きの際に負傷させた	届け済み	GH内

平成 26 年度
社会福祉法人さざんか会
事業報告(統一版)

事業所名 〔のまのまホームズ〕

平成 26 年度事業活動重点事項及び成果

(1) 職員の意識

世話人等の職員が「自分の職場は、よそ様の家である」。という基本が、理屈では分かっているけれども日常業務で生かされない課題が気になります。もちろん意識に個人差があるものの、「基本の“き”」を忘れないようにしたい。

(2) 食事提供について

世話人等の食事に関する感覚が、入居者への食事提供にも反映されてしまう。調理できる人、苦手な人と世話人等様々であるが、肝心なのは「入居者の方の気持ち」という「基本の“き”」を忘れないようにしたい。

(3) ハウスキーピング

福祉サービスにおいて居住分野は働く者自身の「日頃」がどうしても出てしまう。ゴミ出しや洗濯等、細かいことがおざなりにならぬようにしたい。

(4) 「グループホーム」という名の入所施設にしない。

世話人等は、職員は不平や不満を口にする前に、イメージを広げてほしい。そのための研修が必要。

(5) サービス管理責任者の役割の認識

「サービス管理責任者の仕事って？」法人内の他事業でも同じ課題を感じる。計画的な研修体制は急務。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数) 小数1位四捨五入

	管理者	サビ管	世話人	生活支援員	計
26年度当初	1	1	7	10	19
男 性	1	1	5(4.3)	4(2.4)	11(6.7)
女 性			2(2)	7(2)	9(4)
計	1	1	7(6.3)	11(4.4)	20(10.7)
年度中増減					
男 性			1(0.9)		1(0.9)
女 性					
計			1(0.9)		
27年度当初	1	1	7	10	19

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	えきまえだ	シャントニオ	マリン	どどんば	にこにこ	計
定 員	4	6	3	4	3	20
26年度当初契約者数	4	6	2	4	3	19
年度内新規契約者数			1			1
年度内解約者数	1					1
年度末契約者数	3	6	3	4	3	19

(2) 利用率

利用事業名	えきまえだ	シャントニオ	マリン	どどんば	にこにこ	計
年間延契約者数	1,460	2,190	851	1,460	1,095	7,056
年間開所日数	365	365	365	365	365	365
年間延利用者数	1,429	1,957	629	1,413	1,095	6,523
利用率(%)	97.8	89.3	73.9	96.7	100	3

(3) 利用者の年齢区分(平成27年4月1日時点)

年齢区分	26~30	31~40	41~50	51~60	61~	計
男性	3	5	3	1	1	13
女性		2	2	1	1	6
計	3	7	5	2	2	19
構成比率	15	36	26	10	10	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成27年4月1日時点)

区分	2	3	4	5	6	計	平均区分
男性	2	1	6	2	2	13	4.0
女性	1		1	2	2	6	4.6
計	3	1	7	4	4	19	4.2
構成比率	15	5	36	21	21		

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市	鎌ヶ谷市	習志野市	その他		計
					県内	県外	
男子	11	1			1		13
女子	5	0			1		6
計	16	1			2		19
構成比率							

4. 保護者の状況

事業名

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男性利用者	4	2	3	2	1		1	13
女性利用者	3			2			1	6
計	7	2	3	4	1		2	19

5. 職員研修について

ア、法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
本人中心の支援とは	支援職	H26.4.5	3名	辞令交付式記念講演

イ、外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考

6. 事故の発生について *ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H.26.8.11(月)	男性利用者、自室のドア枠に耳をぶつけてしまう。	付き添い・見守りの強化	有	
2	H.26.9.6(土)	女性利用者、外出時に階段を踏み外し、右足甲捻挫。	付き添い・見守りの強化	有	
3	H.26.10.31(金)	女性利用者、夜間時、トイレ内にて転倒。	付き添い・見守りの強化	有	
4	H.26.11.4(火)	女性利用者、起床時の支援中、右足小指骨折。	付き添い・見守りの強化	有	